

第1学年3組 音楽科 学習指導案

平成29年12月12日（火）

授業者 教諭 秀嶋 矩子

1 題材名 我が国の伝統と文化の尊重

「日本の音階に親しみ創作マスターになろう」（箏体験）

2 題材について

(1) 生徒の実態

（略）本時の創作活動では、「器楽（箏）」を用いることで興味を高め、「創作」への垣根を低くすることで、生徒の感受する能力を高めてより活発な学習へとつなげたい。

(2) 題材設定の意図

学習指導要領との関連として、第1学年の目標及び内容、1目標の(1)(2)及び、2内容A表現の(3)のア・イに即して進めていく。また、指導計画の作成と内容の取扱いの2の(2)(3)(5)(7)に注意し、特に(7)のア・イの指導に当っては本題材の要となる学習活動であるため、配慮していきたい。

本題材では、音楽科第1学年で求められる創意工夫や表現の能力をより深めるために、指定されたリズムや音階を基に、学習を展開していく。日本音階は5つのうち、差の分かりやすい2つの音階（民謡音階と琉球音階）を扱う。和楽器（箏）の簡単な知識や奏法から、その楽器がもつ独特の音色や日本音階の雰囲気を感じ取り、創作活動を行っていく。

本題材の【人との呼応】から生み出される創作活動は、〔共通事項〕の【反復】、【間】、【動機】などにあたる。本学級が合唱コンクールを経て乗り越えてきた「他者との調和」を、この題材を活かしてさらに身に付けさせたいと考えている。また、小学校からの和楽器の学習活動を踏まえ、〔共通事項〕(1)イに配慮し、取り組ませたい。さらに、前述(7)のア・イの協調学習においても、IT機器を用いて発展できるように、創作や器楽に抵抗をもつ生徒にも配慮しつつ、本題材を扱っていくこととする。

(3) 指導観

音楽科では、生徒が興味をもって取り組めるよう、体験活動に力を入れている。義務教育最後の3年間、できるだけ多くの体験ができるよう、1学年は箏体験、2学年は和太鼓体験、3学年はドラム体験を行い、歌唱だけでなく、器楽への充実も図っている。特に久喜市が力を入れている「小中一貫教育」では「小中音楽交流会」や小学校に向けて中学校教員が「派遣授業」を行っている。そして本校と学区内の二つの小学校では『久喜東夢学園』を構成し小中一貫教育を精力的に行っているため、本題材で取り扱う和楽器（箏）も小学校へ貸し出し、学習の発展と継続を図っている。そのため、器楽への抵抗も少なく、とても意欲的に音楽への授業を展開することができている。しかし、その中でも授業時数との兼ね合いで、深い学習まで発展できていない分野が「創作」になる。

本校の生徒は歌唱、鑑賞を得意とし、器楽の機会も他校に比べて非常に多いものの、なかなか「創作」への取り組みは継続するまでに至っていない。そのため、「音楽的な感受や表現の工夫」において、非常に長けている生徒と、その能力を開けずにいる生徒にとって、本題材の創作活動は、他分野へのさらなる強化につながると考えている。

本題材は、器楽（箏）というツールを通して2つの日本音階を感受し、箏の簡単な技法を学習して、2時間の創作活動を行う。IT機器を用いた記録から、自身の創作がどのように変化するのか、日本音階（民謡音階と琉球音階）の独特な音色を感じつつ、創作の面白さに気付く生徒を育成する。

3 題材の目標

- (1) 日本音階の独特な旋律の響きに関心を持ち、協調学習に主体的に取り組むようにする。「音楽への関心・意欲・態度」
- (2) 日本音階の特徴的な響きや面白さを感じ、リズムや対照、間などを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、思いや意図をもって音楽表現を工夫する。「音楽表現の創意工夫」
- (3) お互いが発する音色を聴きあい、表現をするために必要な奏法や間などの技能を身につけて雰囲気に合った表現をする。「音楽表現の技能」

4 教材について

教材名：日本音階（民謡音階と琉球音階）

わらべうた「あんたがたどこさ」 箏曲「六段の調べ」

教材の特徴：主に2回の創作活動、器楽（箏）の体験

「器楽（箏）」を用いることで興味を高め、「創作」への垣根を低くすることで、生徒の感受する能力を高め、より活発な学習へとつなげたい。

創作 1：音階の雰囲気を意識し、指定された3つのリズムを選択に、ルール（反復、動機、間など）を入れる。

創作 2：音階の雰囲気を意識し、学んだ奏法を取り入れて、ルールに従って創作する。

5 学習指導要領の指導事項と〔共通事項〕ア・イの関連と具体的な学習活動

〔共通事項〕ア	旋律	リズム
イ	民謡音階 琉球音階	2分音符、4分音符、8分音符 4分休符
主な学習活動	<p>「箏体験と協調学習による創作活動」</p> <p>2つの音階をあらかじめ大きく2つのグループに分け、それぞれジグソー活動を行う。最終的にそれぞれの音階に合う奏法を考え、組み込み、仲間と対照して一つの作品を創り上げる。</p>	

6 評価規準（題材の評価規準及び学習活動における具体的評価規準）

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
題材の評価規準	<p>① 箏についての基礎知識や奏法を学び、関心をもって取り組んでいる。</p> <p>② 日本音階の特徴や和楽器特有の響き、音の特徴から創作活動に意欲的に取り組んでいる。</p> <p>③ 箏を通し、日本特有の音楽に関心をもって学んでいる。</p>	<p>① 音楽を形づくっている要素（音色、旋律など）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音階などの特徴を感じ取って音素材の特徴を感じ取って工夫し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>① 日本音階の特徴を生かした音楽表現をするために必要な和楽器の技能を身に付けて簡単な旋律をつくっている。</p> <p>② 日本音階の特徴、反復、動機、間などを生かした音楽表現をするために必要な和楽器の技能を身に付けて音楽をつくっている。</p>
1時	①	①	
2時（本時）	②		①
3時	②		②
4時	③	①	

7 指導と評価の計画（4時間扱い）

時	○学習内容・主な学習活動	○指導上の留意点 ☆具体の評価規準
第1次 日本音階の独特な音色を感じて創作活動しよう。		
1	○箏についての基礎知識や奏法を学ぶ。	○箏の基本的な知識だけでなく、正しい姿勢や簡単な奏法（弾き方等）に留意させる。 ☆正しい姿勢と奏法に関心をもって取り組んでいる。
2 (本時)	○6班4~6名に分かれ、指定されたリズムに日本音階（民謡音階と琉球音階）を当てはめる。 ・ 箏体験 創作活動1（録画1）	○箏や日本音階の音色や響きを感じ取りながら仲間と対照できるよう助言する。（反復、対照、間） 代表1名は固定する。 ☆正しい姿勢と奏法で音色や響きを感じ取りながら対照しようとしている。 ○ワークシートを活用する。
第2次 箏の奏法を活かして日本音階の独特な音色を引きだそう。		
3	○正しい姿勢と奏法で、音色にあった創作をする。 ・題名をつける。 ・ 箏体験 創作活動2（録画2） ○録画1と録画2を比べ、それぞれの音階を活かした音色と奏法になったか考える。	○箏の奏法（かぎ爪、合わせ爪等）レパートリーを増やし、相手の音色にあった音楽を創作できるよう支援する。 ○リズムや音階、相手の旋律に合う創作になったか（反復、対照、間、奏法）違いを感じさせる。 ☆作品の雰囲気を感じて互いに創作活動をしている。 ○ワークシートを活用する。
4	○箏曲「六段の調べ」を学習する。音色だけでなく、日本特有のテンポ「序破急」について学ぶ。	○箏の技法が聴き取れるよう、もう一度奏法の確認をする。日本特有の音楽の流れを感じる。 ☆リズムの変化や段合わせなど、相手とのかけあいや間など、雰囲気を感じ取っている。 ○ワークシートを活用する。

8 本時学習指導（本時 2/4時）

(1) 本時の目標

- ①箏体験を活かして日本音階の音色に関心を持ち、創作に積極的に取り組んでいる。「音楽への関心・意欲・態度」
- ②日本音階の特徴を感受し、イメージを膨らませて創作活動を工夫している。「音楽表現の創意工夫」
- ③ジグソー活動の作品から生まれた雰囲気を感じ、その音色に合った掛け合いの音楽を、表現している。「音楽表現の技能」

(2) 展開

	○学習内容・主な学習活動 ☆研究に関わる学習活動	○指導上の留意点 ◎具体の評価規準（評価方法・手だて）
導入 (10)	○日本音階の紹介（A民謡音階とB琉球音階）をする。 ・「あんたがたどこさ」を民謡音階と琉球音階で聴き比べ、違いを感じ取る。	○日本音階の雰囲気を感じ取れるよう、「あんたがたどこさ」を教師が模奏する。

○本時のねらいを知る。

箏体験を通して、日本音階の創作マスターになろう！

☆協調学習【ジグソー活動】

・**創作1**

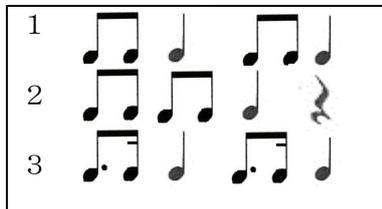
それぞれの班が選択したリズムパターンに、A民謡音階とB琉球音階に別れ、それぞれ音を自由に組み合わせて創作活動に取り組む。

※基となるリズムを担当する人を**マスター**とする。

・「マスター」の音は固定とし、「合いの手」のリズムは一緒だが好きな音を選べる。

・班のメンバーで曲をつないでいく。

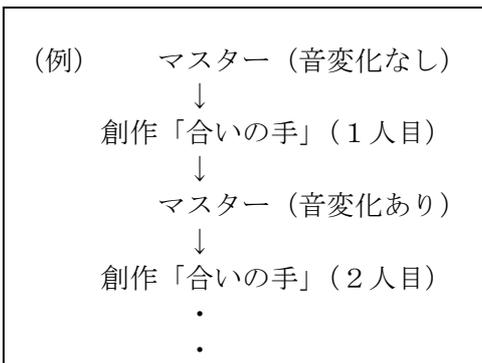
【リズムパターン】



・**創作2**

それぞれの班が選択したリズムパターンの基の音に変化する。それに応える合いの手を考え、班のメンバーで曲をつないでいく。

(録画1)



○各班の**創作2**の発表を行う。

・どの音でも○○風の音楽になることを知覚する。

◎日本音階の音色に興味・関心をもち、箏を用いて意欲的に創作の学習に進んで取り組もうとしている。(評価規準ア②行動観察)

○班の中で一人だけ基となるリズムを担当する。(マスター)

○教師は机間巡視する。

○創作活動のルールを意識させ、その課題を活かして工夫させる。

【創作ルール】

- 1 指定されたリズム
- 2 反復や動機を1回は使用
- 3 相手に合わせて「間」をつくり、ラストの一音を合わせる。

○班の中で、誰が【創作ルール】2、3番を担当するのか考えさせる。

◎音楽を形づくっている要素(音色、旋律など)を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音階などの特徴を感じ取って音素材の特徴を感じ取って工夫し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。(評価規準イ①行動観察、ワークシート)

《Bと判断されるポイント》

担当する日本音階の特徴を感じ取り、音の設定に工夫が見られる。

《Aと判断されるポイント》

担当する日本音階の特徴を感じ取り、音の設定に工夫が見られる。さらに、相手とタイミングを合わせ演奏することができる。

《Cとなる生徒への支援》

指定されたリズムで正しく奏法できるよう、班の生徒と協力して活動させる。

○A民謡音階とB琉球音階の雰囲気を表現し、ねらいに近づくことができたか、気づかせる。

展
開
(35)

整
理
(5)

○本時のまとめと次回の予告を聞き、課題を知る。

・ワークシートに記入する。

○箏の技法を増やし、今後の創作のポイントを意識させる。

箏 () 1年 組 番 氏名

授業 (主な授業内容)	1回目 (箏の知識)	2回目 (創作1)	3回目 (創作2)	4回目 (六段の調べ)
月 日 (曜日)	月 日 ()	月 日 ()	月 日 ()	月 日 ()

教科書 P40、41 参考：器楽 P24～31

1 回目

●楽器について●

- ・「箏」は“こと”とも「」とも言います。
- ・箏は奈良時代に雅楽に用いられる楽器の一つとして唐（中国）から伝来しました。箏は通常【（きり）】の木で作った胴に【本】の弦を張り、下の写真 A のような【（じ）】と呼ばれる駒を動かして音の高さが調節できるようになっています。その各部の名前は箏全体を【の姿】になぞらえてつけられています。
- ・「琴」という字は【】と読み、【本】の弦で【】のない【】の楽器のことをいいます。
- ・箏は台ではなく【】で数えます。
- ・弦は【】という漢字で表記されることが多いです。
- ・奏者の向こう側から手前に向かって順に
一 二 三 四 五 六 七 八 九 十【】【】【】と呼びます。



A



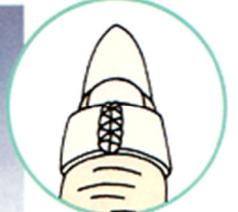
- ・左のような物のことを【】といい、Aは13番目の弦を使うので【】といいいます。

- ・「箏」に使われる爪には2種類あり、角爪は【流】、丸爪は【流】の2つの流派からなる。
- ・みんなが授業で体験する爪は【爪】です。
- ・本来、「箏」を演奏する時に右手の
【指】
【指】
【指】の3本指にはめて演奏します。

角爪
かくづめ



丸爪
まるづめ



- ・【爪】で演奏する時は左のかどで弦をはじく為（右利き用）、体を左斜め前にして座ります。一方、【爪】の場合は、中心で弦をはじく為、体は正面を向いたまま演奏します。

班のメンバー：【 _____ 】

リズムパターンは【 1 ・ 2 ・ 3 】

リズムを書こう→

日本音階は【 A ・ B 】です。

→

音階

2回目（創作1）

☆それぞれの日本音階のイメージ

A

音階は

B

音階は

※基となるリズムを担当する人がマスター【担当： _____】

創作ルール ※毎回、誰が2と3を担当するのか、決めておこう

1 指定されたリズムを使用

2 反復（くりかえし）や動機（呼応など）を1回は使用

3 相手に合わせて「間」をつくり、ラストの一音を合わせる。

チャレンジ1★マスター（音変化なし）→創作「合いの手」（一人目）・・・交互に行う。

チャレンジ2★マスター（音変化なし）→創作「合いの手」（一人目）→マスター（音変化あり）→創作「合いの手」（2人目）・・・

箏を体験し、日本音階の音色にふれて、どんな感じだったかな？

次の創作で工夫できることはなんだろう？

2回目の創作活動、箏の技法を取り入れたことで、1回目とどのような変化を感じましたか？担当したリズムの効果についても述べてください。

4 回目

● 箏曲「六段の調べ」 ●

参考：教科書P42

・作曲者は「八橋検校」() という。

検校とは・・・ () の不自由な () などで作られた組織の最高位

・作曲者が活躍したのは、今から約300年前の() 時代)。
この人物のすごいところは功績を讃え、京都の銘菓「
」の名前の由来とな
った。

功績① 目が不自由ななか、「
」になった。

功績② 「
」(ひらぢょうし) という調弦法を確立し箏曲の発展に貢献した。

聴く前に唄ってみよう♪

ターン トーン シャーン・・・

シャーシャー コーロリン チン トン コーロリン シャン チン

テーツー コーロリン チン トン コーロリン シャン・・・

♪ CD箏曲「六段の調べ」段合わせ・三曲合奏を聴いて感想を書きましょう。

～評価～

1年 組 番 氏名